

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	適切な図書館の設置により、中等学校の学習環境が改善し、生徒、教員の学ぶ意欲が高まり、教育の質が向上する
(2) 事業の必要性(背景)	<p><u>(ア)事業実施国における一般的な開発ニーズ</u></p> <p>ラオスでは今日でも本の書店、図書館はほとんどなく、家庭には図書はない。子どもたちは、初めて小学校で文字に触れることになる。授業は先生が黒板に書いた内容の丸暗記が基本で、内容を考え理解することは大切にされていない。限られた情報にしか接せられず、児童生徒への働き掛けが弱いこの教育環境では、子どもが広い世界への好奇心や知識を持ち、自ら学ぶ意欲を育てることは難しく、生き方の選択の幅は広がらない。教育省によると、小学校の卒業率は70.6%、中等学校では56.5%と極めて低い。学校教育に魅力が無いことが理由の一つである。この状況に対し、政府も学校教育を充実させるため、教育制度を小学校5年(義務教育)、中等学校7年の計12年間の教育制度に変更し、さらに読書環境の整備を重視し、図書室設置・整備を学校の設置基準とした。現在、不十分ながらも小学校約9千校のうち約800校に小規模な図書室が設置されている。しかし、中等学校では約1500校のうち100校と設置率はより低い(ラオス国立図書館)。特に近年増加している中等学校では、千名を越える生徒を擁しながら、図書室が設置されていないところが多い。中等学校は、ラオス社会の中堅となる人材を育てる役割を担っているが、急増する生徒に校舎をあてがうのがやっとなり、社会発展に必要な知識、技術、意欲を持つ人材を育成できていない。その結果、新しい社会に対応できない若者は、国内で職を得ることができず、タイへ単純労働者として出国する例も多い。その一方、意欲、訓練度が高い中国やベトナムからの労働者が急増し、若者はますます仕事を見つけづらくなっている。海外企業からは、「計算ができない。自分で考え行動できない。」など人材への評価が低く、質の高い教育を受けた若者が少ないことが、進出をためらわせる理由となり、ラオス社会の発展の制約となっている。</p> <p><u>(イ)外務省の国別援助方針</u></p> <p>国別援助方針では「(3)教育環境の整備と人材育成」として、「社会経済開発の鍵となる人材を育成するため、教育環境の整備、教員の質と学校運営の改善を支援する」とある。当事業は教育環境の整備であるとともに、教員が授業で図書を活用することで、教育の質の改善にも繋がる。</p> <p><u>(ウ)なぜ申請事業の内容となったか</u></p> <p>(1) これまでの活動実績</p> <p>当会は1991年からラオス政府が進める読書推進活動に協力し、約3000の小学校への図書配付、260校の小中学校への図書室整備を実施した。同時に図書管理や活用、読書推進に関する教員研修を約5千人におこなってきた。県・郡の教育指導官のトレーニングにも力を入れ、学校での図書活動が継続かつ安定的に行われるようサポート体制を整備してきた。この結果、児童生徒たちは図書室で初めて図書に触れ、文字を覚え、知識を得、思考力を養うことができるようになった。「学校に通うのが楽しく、休まなくなった」、「自分に自信がついた」、「ラオス語の理解度が上がり、子どもが授業へ集中することで、教える側も授業が楽しくなってきた」といった声が寄せられ、学校が活性化している。このように、学校図書室は児童生徒たちにとり、多様な世界への入口として、学びを刺激する場として定着してきている。</p> <p>(2) 大規模中等学校での図書館建設</p> <p>しかし、上述のよう、社会の中核となる人材を育成すべき中等学校の多くには、図書室がない。生徒は教科や授業で学習した内容を、自ら調べ深める手</p>

	<p>段を持たず、新しいことばに出会っても、その意味を調べることができない。また文章を読むことで培われる文章力、読解力も身につかず、社会に必要な基礎能力を伸ばすことができていない。そこで、今日社会発展のために一番必要とされている能力を育成するため、今後とも生徒の増加が予想され、教育環境がより困難な、生徒数が千人を越える大規模中等学校における図書館設置活動を計画した。これまでの空き教室を利用した図書室では狭いことから、多くの蔵書をもつ、独立した図書館とすることで、生徒には自由に自らで調べ、学習できる場となり、教員には授業を豊かにする工夫が可能となる。また、これまで学校で実施されていない、図書館を活用した調べ学習の方法を指導し、授業に取り入れることで、事業校はモデル校としての役割を担うことができる。</p> <p>(3) 事業校の選択</p> <p>今回の事業地の選定に当たって、図書室が設置されておらず生徒数が千人を超える条件から、ニーズが高く、建設スペースがあり、図書館設置後、運営管理を積極的に担う態勢が整っている学校 2 校を選定した。中等学校の図書館モデルとして、他校のトレーニングがしやすいアクセスも考慮した。</p> <p>■ポントーン中等学校： ビエンチャン都北部県境の幹線道路沿いに位置。生徒数 1273 名。1～7 年まで完備した同校には、周辺から多くの生徒が集まる。地域にはモン族やカム族といった少数民族も多く、習得のハードルが高いうオ語(国語)の読解が困難だという生徒が少なくない。校長は、「図書館により学びの環境が改善され、生徒のラオス語の読む技術も向上する。読書により創造力を高めることができる。すぐにでも図書館が必要」と要請している。</p> <p>■ノーンサアット中等学校: ビエンチャン都中部。1～7 年で生徒数は 1708 名と非常に大きい。1 教室の生徒数は 50 人と全国平均を約 10 人上回る。教室に余裕がなく、学習場所としても図書館が必要とされている。現在は、教員室の隅を図書コーナーにしているが不十分。地域でボランティア活動が実施されており、住民との協力体制があることから、図書館設置後は、住民の図書利用と共に、運営、維持のサポートも期待できる。</p> <p>今回の候補校において、前者では少数民族への教育強化、後者では教員による図書活用授業のノウハウの確立および地域住民との連携をポイントとする。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>(ア) 図書館建設、図書設置</p> <p>ポントーン中等学校、ノーンサアット中等学校において、床面積 81 m²、椅子 53 席、ベンチ 30 席、本棚 10 台規模の図書館を建設。多様な内容・多数の本を整備することで、読書や調べ物、学習ができる環境を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラオス経験が深い建築家を日本から派遣し、設計・工事調整をおこなう。 ・建設業者には、工事進捗状況を毎週、当会に報告させる。加えて、当会スタッフによる現場のモニタリングを 3 週間に 1 回程度実施する。 ・生徒や教員へのニーズ調査を元に各校に適した本を選定する。1 校に対し 1700 冊程度を設置(次年度以降、当会の費用で図書を追加する)。同時に、図書室運営に必要な備品、文具などを調達する。 ・読書、調べ物、勉強の場を作り、生徒が図書館を多様に活用できるようにする。机と椅子は学校側が調達する。 <p>(イ) 教員への研修</p> <p>図書館の機能や役割を知らない教員に対し、図書館とは何か、図書をどう扱うかなど、図書館の運営管理の方法を基礎から研修する。理論のみならず実践力を付けることに重点を置き、学校の人材のみで運営できるようにする。図書館担当教員には、図書登録など段階的に 3 回に分けて研修をおこなう。また、担当以外の教員も含め、各校の教員 35 名を対象に、4 日間の研修を実施し、生徒の自発的、主体的な学習活動を促すよう、調べ学習</p>

	<p>など図書館を利用した授業ノウハウを伝える。教員はこれまで図書を使った授業の経験が全くないことから、活用方法を繰り返し研修することで、教員に自信を持たせ、実行性を高める。</p> <p>(ウ)生徒への研修</p> <p>生徒を対象に、本の楽しさを伝えるブックトーク、本を題材にした劇、詩の詠唱などをおこない、読書に興味を持つよう研修する。全生徒を対象に実施し、図書館を活用した調べ学習の方法を指導することで、学習に対する興味、関心呼び起こす。4 日間の日程で、前半は当会が直接指導し、後半は研修を受けた教員が指導し、当会スタッフがチェックする計画。</p> <p>さらに生徒の図書ボランティアによる運営サポートの整備を指導する。ボランティアを研修して育成することにより、生徒が図書館を身近に感じ、生徒の意見を反映させ、より利用しやすい状態にする。</p> <p>(エ)開設後のフォローアップと評価</p> <p>開設後 3 ヶ月以内に活動状況をフォローアップし、事業評価をする。</p> <p>2 年目以降、当会の自己資金にて、本事業地を拠点として、周辺校の教員に対し、図書館運営や授業での図書活用に関する研修を実施する。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>以下の体制を整えることで、事業の効果が持続可能となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校の人材のみで適切に図書館を運営できる体制を構築する。 ② 生徒による図書ボランティアにより運営の安定化を図る体制を作る。 ③ 図書館担当教員を複数名とすることで、異動があっても、教員相互で補い合い、継続できる体制を作る。 ④ 教育局の指導官が学校図書館をモニタリングする体制を作る。 ⑤ 中等学校における図書館活動に関する研修を周辺校の教員へ実施するなど、モデル校としての役割を担うようにする。
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>現在、図書館が無いことでできていない、以下の点が達成されるようになる。</p> <p>成果は、図書館の活動記録データ、インタビュー、アンケートにより確認する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>中等学校 2 校で十分な設備が整った図書館が開設され、効果的に運用されるようになる</u> <ol style="list-style-type: none"> 1-1) 図書利用、貸出などの図書館サービスが週 5 日間、定期的に提供される 1-2) 研修を受けた教員が図書館運営をできるようになる 1-3) 生徒の図書ボランティアが、図書館運営をサポートできるようになる 1-4) <3 年後>本の補充が自主的に学校によりおこなわれるようになる 2) <u>図書活用研修の成果として、教員が図書を使い、多様な教え方が出来るようになる。その結果、授業の質が向上し、生徒の授業への関心が増す</u> <ol style="list-style-type: none"> 2-1) 教科書以外の図書を用いる授業が、週 1 回以上実施されるようになる 2-2) 教員の工夫された授業により、授業の理解度が増す生徒が 90% 以上になる 2-3) <3 年後>図書館活動のモデル校として、周辺校の教員への研修を実施できるようになる 3) <u>図書館の様々な図書に接することにより、生徒が多様な知識を身につけ、学ぶ意欲を増す</u> <ol style="list-style-type: none"> 3-1) 1 か月で、全生徒の 80% 以上が図書館を利用するようになる 3-2) 1 か月で、全生徒の 70% 以上が図書を借りるようになる 3-3) 全生徒の 75% が調べ学習など図書の活用をおこなうようになる 3-4) <3 年後>生徒の具体的な進路希望が多様化する 3-5) <3 年後>当会主催の図書・作文コンクールに生徒が応募するようになる